

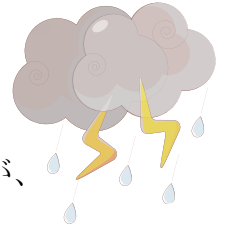


薬の伝言板 水虫

No.151 2010年6月

丸子中央総合病院 薬剤部

これから夏場にかけて高温でジメジメしてくると増殖するのが水虫です。今月は、水虫についてお話したいと思います。



水虫の正体は白癬菌というカビの一種です。水虫は、手などにも感染しますが、多くは足に起こる皮膚の病気です。主に、皮膚表面の角質層に生息して、皮膚のたんぱく質をエサにして生きています。角質層は、新陳代謝により垢になって皮膚の表面から少しずつ剥がれ落ちていきます。水虫は、剥がれた皮膚片の中でもしばらく生きつづけますので、これが感染源となります。

《症状》

水虫はかゆいというイメージがありますが、実はかゆみがない場合もしばしばあります。足の水虫では、足裏、足指の間に起こるものなど、いくつか種類があります。

◆足の指の間にできるもの [趾間 (しかん) 型]

足の指の間の皮が、ふやけて白くなり、かゆみを伴うことがあります。

◆足の裏にできるもの [小水疱 (しょうすいほう) 型]

足の裏やふちに、小さな水ぶくれができ、激しいかゆみを伴うことがあります。水ぶくれは、破れると液が出ますが、やがて白くカサカサに乾き、皮膚がボロボロとむけてきます。

◆足の裏全体がかたくなったもの [角化 (かくか) 型]

かゆみは少なく、かかとなど角質層が厚いところに、水虫が奥深く入り込んで皮膚がかたくなり、やがて足の裏全体に広がっていきます。

◆爪に水虫菌が入ったもの [爪水虫]

爪も皮膚の一部なので水虫になります。直接爪の水虫になることはなく、足の水虫が爪に感染して起こります。かゆみは少なく、爪が白くにごり、厚くなります。足の水虫を放置したためにおこることがほとんどです。





《治療》

外用剤を塗ることが水虫治療の中心となります。

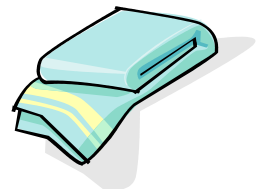
薬を直接患部に塗ることにより、水虫を殺したり、その発育を抑えたりします。皮膚の角質層は約1ヶ月で入れ替わりますので最低でも1ヵ月は続ける必要があります。使用法としては、患部をきれいに洗い、水気を取ってから塗ります。

塗る時間はお風呂上りが良いでしょう。

塗り薬は、1日数回塗るものから、1回で済むものもあります。

種類としては、クリーム剤・軟膏剤・液剤があります。

クリーム剤	刺激があるため、傷口などには使えませんが、皮膚への浸透力が優れていて最も多く使用されています。	アトラントクリーム マイコスポールクリーム ニゾラルクリーム メンタックスクリーム
軟膏剤	刺激性が少なく、症状が悪化して傷になっている患部にも使用できる特徴があります。	アスタット軟膏
液剤	乾きやすく、使った感じはいいですが、少し刺激があるので悪化している患部には適しません。	アスタット液 ハイアラージン液
内服薬	爪水虫の場合は、内服薬が効果的です。塗り薬では爪の中まで薬の成分が届かないために、薬を患部に到達させることのできる内服薬が有効になります。	イトリゾールカプセル



《水虫の予防と対策》

毎日、お風呂に入って患部をよく洗い清潔にしましょう。

水虫は患部がムレると悪化します。お風呂上りには良く水分をふき取り、靴は通気性の良い物を履きましょう。

水虫は治療しないと治りづらい病気です。早めに医療機関を受診しましょう。



文責 薬剤部 長岡・村瀬